

越前 鯖江

近松が幼いころ遊んだまら

(福井県鯖江市・丹生郡朝日町)

鯖江市は幼少年期を鯖江の吉江で過ごした、文豪近松門左衛門に出会えるまちです。

市の南部、鯖江台地の南端に王山古墳群があります。昭和四十二年(一九六七)に国の史跡として指定を受け、古墳公園として整備されています。少し北に行くと鯖江の顔、西山公園があります。安政六年(一八五九)第七代鯖江藩主間部詮勝が、領民と共に楽しむ庭園として嚮陽溪を開拓しました。昭和になってつつじが植栽され、日本海側随一のつつじの名所となっています。約四万三



西山公園

福井県



鯖江市・朝日町



吉江周辺

千株のつつじが咲き乱れる季節は実にみごとなもの。春は桜、つつじの花が咲き誇り、夏にはホタルが飛びかい、レッサーパンダでおなじみの西山動物園など、季節を問わず市民の憩いの場となっています。

西山公園の北に鯖江市資料館があります。館内には近松の座像や近松関連の年表、浄瑠璃の正本などがあります。このほか資料館には古墳時代の資料や、江戸時代の鯖江藩の資料などが多数収蔵・展示されています。鯖江市の歴史を学ぶのに最適な施設です。

鯖江市は、古墳時代から歴史の続くまちです。市内には約八〇〇基の古墳が点在し、大正六年（一九一七）に新町で「銅鐸」どうたたくが、昭和三十一年（一九五六）には西山公園で「有鉤銅釧」あせうずがわが発見されています。また戦国時代の城跡なども多く残っています。

さらに北に進むと、浅水川あせうずがわがあり川に沿って



有鉤銅釧
弥生時代の青銅製の腕輪
鉤(かぎ)が付いているのは全国でも珍しい

下るといよいよ吉江の地にたどりつきます。

正保二年（一六四五）吉江藩が成立しました。館は現在の浅水川に架かる弁天橋のあたりに建てられました。川のはとりに吉江藩館跡の石碑が建っています。また立待公民館の前には三味線の形をした庭や文学碑があります。

重厚な趣の西光寺さいこうじの表門なまがは、吉江藩館の門を移築したものです。城下町のたたずまいを残す七曲りなど、吉江の地は、今もなお当時の吉江藩を偲しのぶことができ、近

松が遊んだであろう春慶寺山しゅんけいじや日野川の自然が多く残っています。

吉江付近の地区に三社の天満宮があります。菅原道真すがわらみちざねのゆかりの地でもあり、道真の三男おとの乙おと千代丸ちよまるが居住したと伝えられており、西番町に館跡の碑が建てられています。このような環境が後の浄瑠璃てんじんき『天神記』につながっているかもしれませんね。



西光寺表門

鯖江市では、平成十年（一九九八）に近松生誕三四五年祭を開催し、マスコットキャラクター「ちかもんくん」を創出するなど、近松のまちづくりを推進しています。

■ 丹生郡朝日町

にゅうぐんあさひちよう

吉江から七曲りをぬけ、石田の渡りで日野川を越え、石田をさらに西へ進むと朝日町です。高台にある古墳公園からは、鯖江が一望できます。朝日町の歴史は古く、縄文・弥生時代、古墳時代の資料を見ることができます。鎌倉時代には泰澄大師が越知山おちさんに大谷寺を開き、山岳仏教（人里から離れて山の中で修行する仏教）が盛んになりました。

石田の西に接する田中、ここは、室町時代に栄えた幸若舞の発祥の地です。浄瑠璃や歌舞伎など、後の芸能や文学に大きな影響を与えた幸若舞は、幼い近松の心をどのように揺さぶったのでしょうか。

鯖江の産業

鯖江は、国内シェアの約90%・世界シェアの約20%を占めるめがねの街です。近年はチタンや形状記憶合金など新素材による新技術の開発にも力を入れており、日本の眼鏡産業の首都ともいえるでしょう。

繊維の街としても有名で、最近ではハイテク技術を駆使し、医療・環境資材など新分野への挑戦も試みられ、世界から熱い注目を集めています。

また、漆文化発祥の地でもあり、日本の漆器五大産地のひとつです。河和田塗^{かわだぬり}ともいわれる越前漆器は1500年の歴史をもち、その研ぎすまされた技^とは伝統工芸として高い評価を受けています。



越前漆器



めがね